

第1回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日 時 2024年5月25日(土) 10:00~12:00
- ◇場 所 県立万葉文化館周辺
- ◇参加者 【学生】東、田中
【院生】伊藤
【万葉文化館】井上、阪口、中本
【大学教員】加藤、米田、大西 計9名

◇内 容 明日香村内のフィールドワーク

水落遺跡 → 石神遺跡 → 明日香村埋蔵文化財展示室 → 甘檜丘 → 弥勒石 →
→ 飛鳥京跡苑池 → 飛鳥宮跡 → 酒船石遺跡

1. 水落遺跡

齊明天皇6年の時、皇太子であった中大兄皇子が作ったと伝えられる「漏刻」台の跡であることが想定されている。「漏刻」台が築かれた背景として、当時の中国的な政治理念にもとづいた「時の支配」の観念が存在したことが考えられている。出土した土器の検討から650年~660年代の間に造営され廃絶したと推定されている。



基壇の遺構

2. 石神遺跡



石神遺跡の案内板

大きく齊明朝、天武朝、藤原宮期の三時期の遺構が明らかとなっている。中でも齊明朝の建物群は当時、蝦夷や外国人使節をもてなし、服属儀礼や饗宴を行う飛鳥の迎賓館であったと考えられる。噴水機能をもつ須弥山石や石人像といった石造物が遺跡の一角から掘り出されている。「古代の迎賓館」として名前は少し聞いたことはあったが、詳しい説明は初めて聞いた。

3. 明日香村埋蔵文化財展示室

恥ずかしながら存在すら知らなかったが、明日香村文化財課が発掘調査を行ってきた遺跡の出土品を中心に展示されている。土・日・祝日は解説員の方もおられ、復元された八角形の牽牛子塚古墳の墳丘について説明していただいた。飛鳥の古代寺院に使われている、「花組」「星組」「雪組」と呼ばれる高句麗系の軒丸瓦の展示が興味を引いた。飛鳥の寺院と朝鮮半島との強い関わりを示すものとして興味深かった。



明日香村埋蔵文化財展示室にて
手前が牽牛子塚古墳の墳丘模型

4. 甘樫丘

采女の 袖吹き返す 明日香風 都を遠み いたづらに吹く



甘樫丘の中腹にある志貴皇子の歌碑は、昭和42年に建立された。揮毫は万葉学者の犬養孝による。当時、ここに8階建てのホテルを建てるという計画が持ち上がり、何とか阻止しようと村が犬養に揮毫を頼んだところ、犬養はしぶしぶ揮毫したという。歌碑が建立された途端、ホテル建設計画がなくなった。万葉歌碑が開発の防波堤になるということで全国各地で歌碑が建てられ、犬養が揮毫した万葉歌碑は全国に141基あるという。

今回は、展望台へ上がる道が工事のため上がることができなかったため、写真は以前撮影したものである。

5. 弥勒石

石柱状の巨石で、石には仏顔面はほとんどないが、わずかに目と口と見られる部分が細工されている。これは後の時代にだれかが付け加えたものかもしれないとのこと。弥勒石を拜むと腰や足など下半身の病気が治るといふ言い伝えがあり、今も地元や周辺の人々の信仰を集めるとともに、「ミロクさん」と呼ばれている。毎年8月15日には、飛鳥大字がお祭りをやっている。



弥勒石

6. 飛鳥京跡苑池、飛鳥宮跡



苑池の説明を聞く



飛鳥宮跡にて

近年の発掘調査により、
I期：飛鳥岡本宮
II期：飛鳥板蓋宮
III-A期：後飛鳥岡本宮
III-B期：飛鳥浄御原宮
の3時期の宮殿遺構が重複して存在していることが判

明している。苑池は南池と北池それぞれに役割がちがっていたのではないかと考えられている。

7. 酒船石遺跡

酒船石がある丘陵は、天理市で産出する砂岩で石垣が築かれており、その北側の谷底には亀形石槽の導水施設を配する石敷き広場が設けられるなど、水に関わる天皇の祭祀空間と朝鮮半島の高度な石工技術との融合を示す遺跡である。これらの構造物は、『日本書紀』が記す「両槻宮」と「石の山丘」ではないかと考えられている。当時の石垣がそのまま見られること自体が貴重である。酒船石そのものを見に行くことはあるが、この石垣を見ることは少ない。



当時の石垣の一部